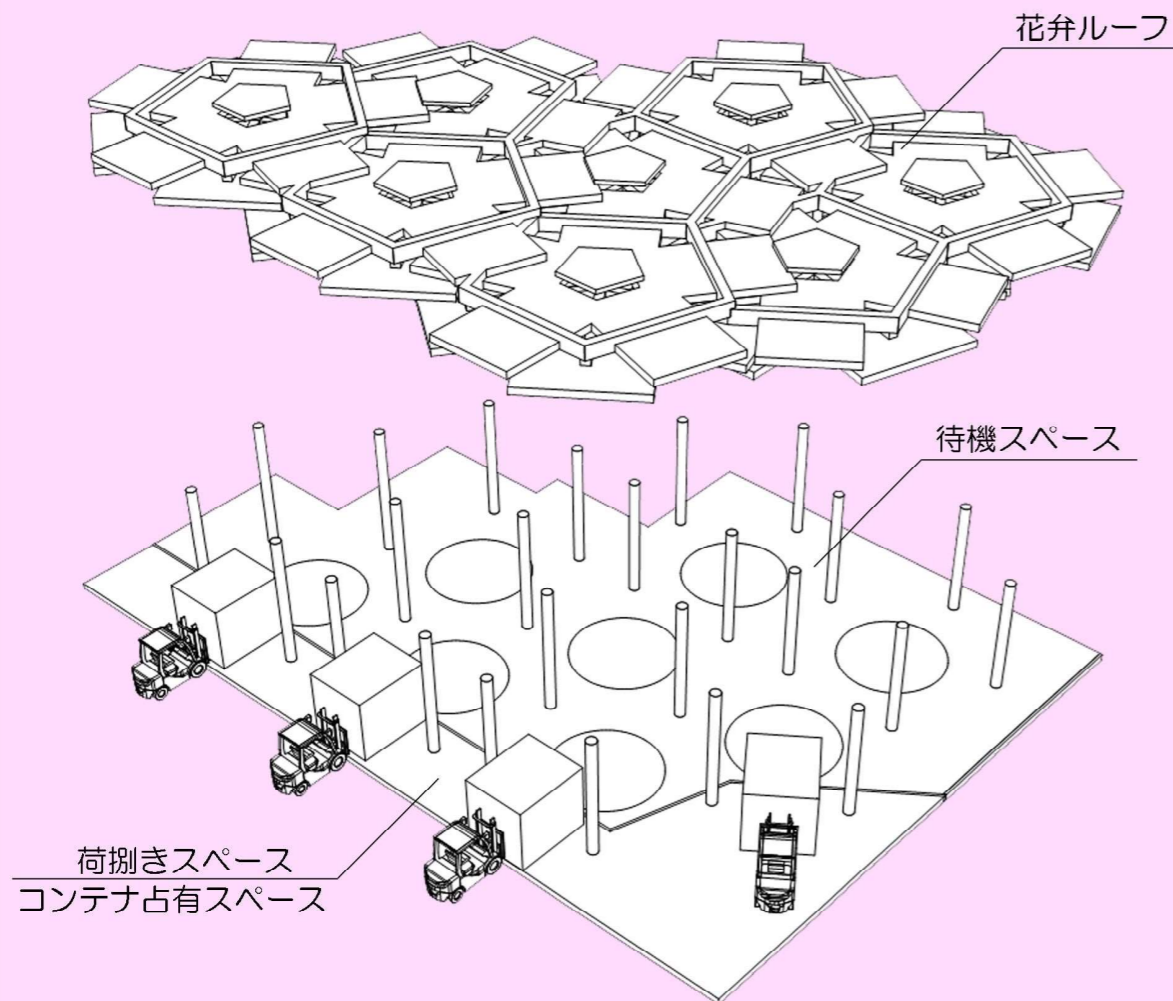


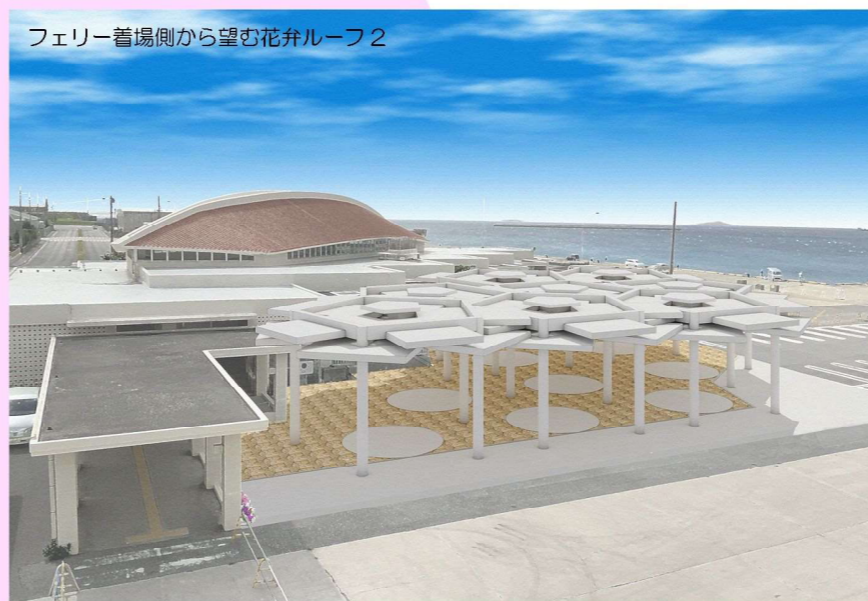
DIAGRAM1：空間構成



フェリー着場側から望む花卉ルーフ 1



フェリー着場側から望む花卉ルーフ 2



花卉が包むやね

CONCEPT

本部港に新たに設ける荷捌き施設は、本部町の花木のシンボルでもあるカンヒザクラをモチーフとし、花卉にみたてた5枚のキャンティスラブで構成されたユニットを折り重なるように配置した屋根を計画します。敷地いっぱいに並べたその姿は、まるで本部町に生き活きと咲くカンヒザクラのよう。フェリーに乗降する旅客が本部の地に触れ、風を感じることでできる空間を花卉ルーフが演出し、下を通り抜ける涼しい海風は利用者を優しく包み込む。たくさんの伊江島での思い出と共に記憶され、またここを訪れたくなるような、そんな荷捌き施設を提案します。

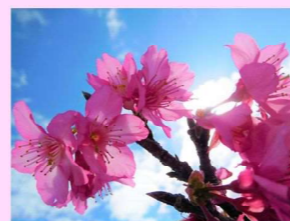
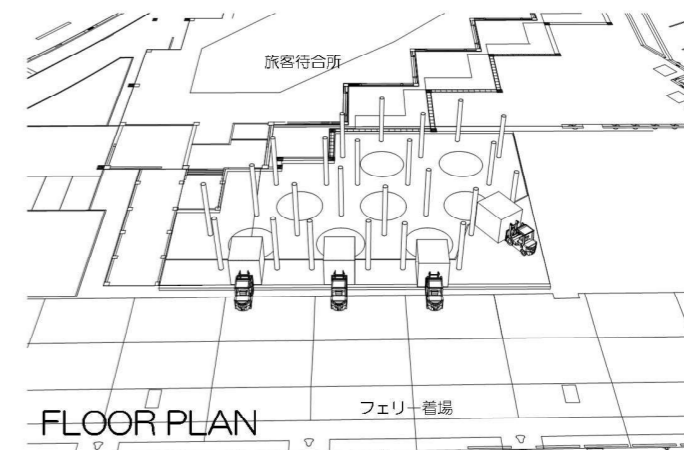
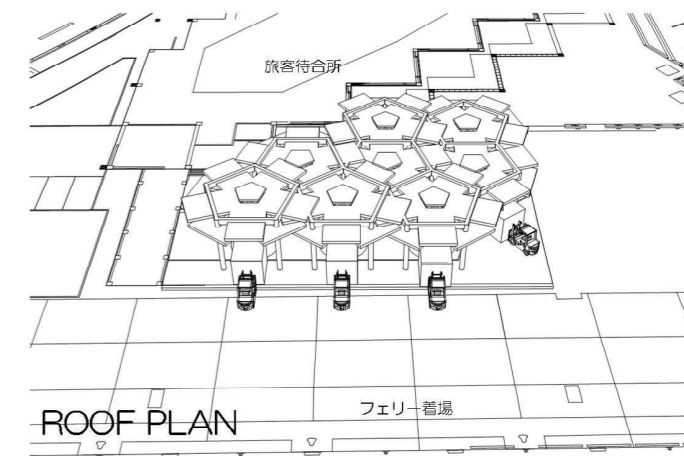
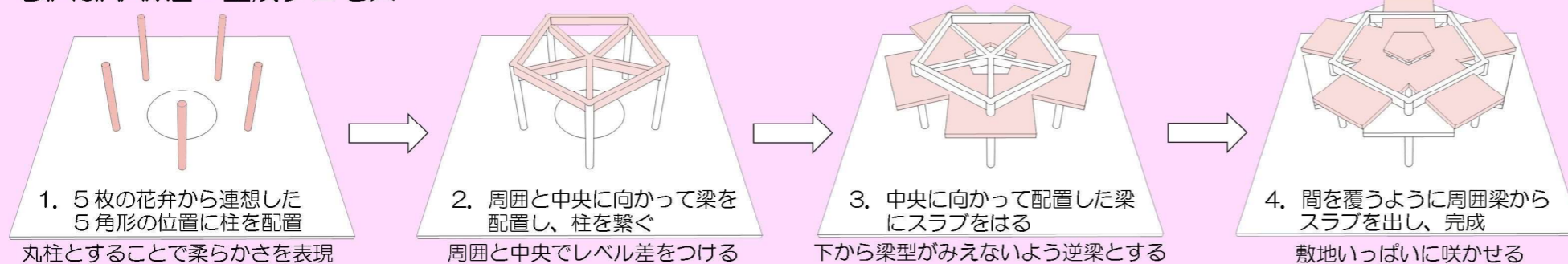
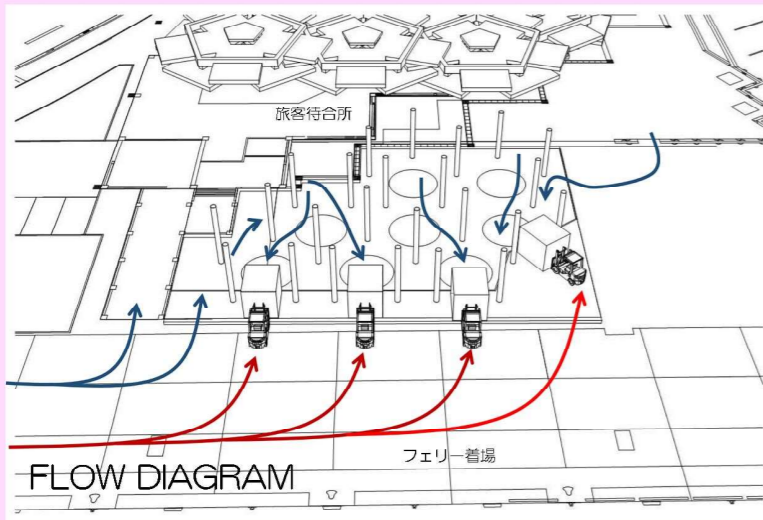


DIAGRAM2：生成プロセス





PLAN

フォークリフトと利用者の動線は交差ししないよう明確に分け、フォークリフトは海側から、利用者は旅客待合所側からコンテナへアクセスするような計画とします。待機スペースの床は琉球石灰岩の乱張り、コンテナの占有する荷捌きスペースはコンクリート金鋺押さえとし、双方床の仕上材に変化をつけることで利用者の視認性を高め、安全に配慮をします。フォークリフト・コンテナに対応する高さ 3,700 は屋根の最も低い位置で確保し、規模条件を満たすものとします。

構造は鉄筋コンクリート造とします。規模条件である耐用年数、メンテナンス費用とも鉄骨造と同等以上を確保し、かつ施工業者を特定することのない一般的な工法とすることで、施工性および経済性にも配慮します。

待機スペースは、柱の囲う中心部分の床を円形にコンクリート土間刷毛引仕上げとします。仕上げを変えることで柱の囲う 8 つのスペースがあるものとして利用者を感じさせ、全体で一つの大きな空間を確保しつつも、分けて利用する際に認識しやすいようにします。大空間または区分された空間としてシームレスに利用できることで、大人数の修学旅行生から少人数グループの一般利用者まで多様な形態に対応できるフロア計画とします。



旅客待合所側から見る：荷捌きスペースと待機スペースの様子



DATA

- 構造 鉄筋コンクリート造
- 仕上 屋根：コンクリート金鋺押さえ + 塗膜防水
- 柱・上裏：吹付タイル
- 床：琉球石灰岩乱張り
- 一部コンクリート土間刷毛引仕上げ
- 面積 有効に利用できる範囲：500.24 m²
- うち荷捌き（コンテナ占有）スペース 96.04 m²
- 待機スペース 404.20 m²



ELEVATIONS

